
X・B・S スバルとミソラの場合

セイバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

X・B・S スバルとミソラの場合

【Nコード】

N7338S

【作者名】

セイバー

【あらすじ】

聖なる夜の愛の物語。それは一通のメールから始まった。リクエ
ストによって復活!!

(前書き)

この作品はTさんのリクエストによって生み出されました。

三度の地球の危機から人類と宇宙を救った英雄ロックマンこと星河スバル。彼の元に通のメールが届いた。

スバル

「『シヨツピングモールへ来てください』だって」

ウォーロック

「誰からだ？」

スバル

「さあ？とりあえず行ってみるよ」

ウォーロック

「おう」

そういうとウォーロックはどこかへと飛んで行った。

シヨツピングモール

スバル

「ここだな……。でもいつたい誰が……ん」

スバルは目の前の少女に気がついた。響ミソラである。

スバル

「ミソラちゃん！！ひょっとしてさっきのメールって」

ミソラ

「うん」

スバル

「でも何でわざわざ……」

ミソラ

「今日は仕事がオフだから、デートしてほしいなって」

スバル

「そうか、それならいいよ」

こうしてふたりのデートは始まった。ふたりは水族館でペンギンや

イルカを見たり、ゲームセンターで遊んだりした。そして、夕暮れになった。

スバル

「もうこんな時間か。楽しい時間が過ぎるのは早いな・・・」

ミソラ

「そ、そうだね・・・／＼／＼／」

そう、時間とはときに速くなり、ときに遅く感じたりするのだ・・・。しかし、スバルはミソラの顔が赤くなったのに気がついた。

スバル

「どうしたの？」

ミソラ

「あ、あのねスバル君、わ、私と付き合って下さい／＼／」

スバル

「ええええええ!!?／＼／＼／／」

ミソラ

「初めてブラザーバンドを結んだ時からあなたのことが好きになったの／＼／＼／」

スバル

「ミソラちゃん・・・。ありがとう」

スバルはミソラを優しく抱きしめた。

ミソラ

「スバル君・・・。ありがとう・・・。」

こうしてふたりは結ばれた。その夕焼けはふたりを祝福しているように・・・。。そしてふたりの影も一つとなった・・・。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7338s/>

X・B・S スバルとミソラの場合

2011年10月6日02時58分発行